

岡山県下最大の柳樹河開拓団 写真と資料展

今年も岡山市福祉援護課の協力のもと、岡山市役所ロビーで「岡山県下最大の柳樹河開拓団」写真と資料展を開催します。2008(平成 20)年「中国残留邦人等改正法」が成立して、次世代継承事業が提唱されました。中国残留邦人等の高齢化が進み、自身の体験を伝える方が少なくなっていることから、中国残留邦人等の体験と労苦を次の世代に継承するため、2016(平成 28)年度から戦後世代の語り部を育成し、2019(令和元)年度から講話活動を行っています。こうした国の政策の下、今回の写真と資料展は今年で 16 回目になります。

1939(昭和 14)年、第 9 次柳樹河(りゅうじゅうが)開拓団は先遣隊を派遣し、本隊は翌年入植しました。場所は、北満の佳木斯(ジャムス)近郊で、岡山県下最大の 513 人が入植しました。この開拓団の特徴は、井原市芳井町明治村と高梁市川上町から送出された分村でした。第 2 の特徴は、県下の転失業者(大工・左官など技術者と食料・菓子業など商業者)が中心でした。さらに 1945(昭和 20)年岡山県からの強い圧力で川上町・美星町から第 14 次柳樹河開拓団が派遣されました。この開拓団の送出や当時の様子から、逃避行に至る 8 年間の写真と資料で紹介します。

現在、岡山県にも中国残留日本人孤児や中国帰国者が多数いて生活しています。深刻な中国帰国者の高齢化と介護の問題、日本語教室、餃子交流会、語り部活動、太極拳等を紹介します。

時期： 4 月 15 日(火)～17 日(木)

時間： 4 月 15 日(火) 10:00～17:00

4 月 16 日(水) 9:00～17:00

4 月 17 日(木) 9:00～16:00

場所： 岡山市役所 1 階ロビー

<展示内容>

- ①柳樹河開拓団の送出から、当時の生活の様子、逃避行の写真と資料展示
- ②中国帰国者の高齢化と介護問題—いよいよ小諸規模多機能介護施設の行事と介護を展示
- ③中国帰国者との餃子交流会、文化交流会、日本語教室、語り部活動、太極拳活動

主催：日中友好協会岡山支部

連絡先：日中友好協会岡山支部 真田紀子

〒700-0954 岡山市北区下伊福西町 1-53 携帯 090-8609-6974

日中おかやまー2025 年岡山市役所ロビー展の原稿

2025(令和 7)年 4 月 15 日～17 日まで、第 16 回目の「中国残留孤児及び残留婦人のあゆみ」写真と資料展が開催された。一昨年は故小林軍治先生の活動歴、昨年は「開拓団の母」船越美智子の足跡を写真と資料で展示した。

今年は、「岡山県下最大の柳樹河開拓団」を取り上げた。1939(昭和 14)年、第 9 次柳樹河(りゅうじゅうが)開拓団に先遣隊を派遣し、本隊は翌年入植した。場所は、北満の佳木斯(ジャムス)東南 45 キロ付近で、岡山県下最大の 513 人が入植した。柳樹河開拓団の第 1 の特徴は、井原市芳井町明治村と高梁市川上町から送出された分村である。第 2 の特徴は、県下の転失業者(大工・左官など技術者と食料・菓子業など商業者)が中心の開拓団だった。第 3 の特徴は、1945(昭和 20)年多くの男性が召集される中で岡山県からの強い圧力で川上町・美星町から第 14 次柳樹河開拓団が 27 名の男性で派遣された。この開拓団への送出や当時の明治郷や川上郷の様子を写真と資料で展示した。さらにソ連参戦以降、開拓団から佳木斯駅、列車で「綏化(すいか)」へ向かい、そこで 8 月 15 日を迎えた。団員は約一ヶ月「綏化格納庫」に滞在した。この間大人は 2 名子どもが発疹チフス等

1046

2025/5/15

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouthao.iinaa.net>
 メールアドレス
rizhongyouthaoiinaa@yahoo.co.jp



で 20 名が死亡した。9 月 16 日に新京(長春)に移動し、団員は神泉寮や官舎で約 1 年待機した。昭和 21 年 7 月に葫蘆島から帰国する。柳樹河開拓団は、111 名の死者が出た。その内子どもが 95 人である。昭和 14 年から 21 年までの入植から逃避行に至る 8 年間を写真と資料で紹介した。

2025
4.16
山陽新聞

報道部
086-803-8035

経 済 部
086-803-8038

文 化 部
086-803-8046

運 動 部
086-803-8050

柳樹河開拓団の
悲惨な歴史知って

岡山市役所で写真・資料展

戦時中に県出身者で
編成されて旧満州(中
東北部)に渡った柳
樹河開拓団に焦点を当
てた写真・資料展(日
友好協会岡山支部主
持)が15日、岡山市役
所1階市民ホールで始
まった。17日まで。
同開拓団は現在の高
民団としては最大規模
の資料や写真、解説文
を貼り付けた模造紙28
点を展示。ソ連侵攻に
よる逃避行で寒さや飢

岡山県下最大の
模造紙「柳樹河開拓団
第一支隊の進軍」
展示中

柳樹河開拓団の当事者の証言などを紹介する
写真・資料展

え、ソ連兵からの略奪
や暴行に苦しんだ当事
者の証言を紹介するほ
か、県が作成した団員
を募集するポスターや
水田を開墾する団員た
ちの写真などが並ぶ。
中国から帰国した残
留孤児の生活ぶりや言
葉が通じない苦労など
も紹介。同支部は「戦
後80年を迎える中、開
拓団を知らない人が増
えている」と、戦争を
繰り返さないため、悲
惨な歴史を知ってほし
いと呼びかけている。
(午前9時〜午後5時
(最終日は同4時)。
(地面美里)

4 月 16 日の山陽新聞

展示を見る小林愛子さん

このほか、岡山県にも中国残留日本人孤児や中国帰国者が多数いて生活している。深刻な中国帰国者の高齢化と介護の問題、日本語教室、餃子交流会、語り部活動、太極拳等を紹介した。日本人介護施設ではどうしても中国帰国者は馴染めない問題があった。中国残留孤児 3 世井堀紅霞と井堀風才夫妻が経営する「いほり小規模多機能介護施設」が 4 年前に開設された。ここでは、中国帰国者たちのお花見、夏祭り、ハロウィン、クリスマス、春節などの行事や介護の様子を展示紹介した。展示では、福祉交流プラザさいでん・高島公民館での日本語教室、岡山市東公民館での中国帰国者との餃子交流会、高杉久治と青木康嘉の語り部活動、青木さんや小川涼子さんの太極拳教室の活動を紹介した。

山陽新聞社からは地面美里記者の取材と報道、朝日新聞からも小沢邦男記者が取材に来た。中国残留孤児 1 世の高杉久治や益田夫妻も顔を見せてくれた。

最後に、アンケート感想文を紹介する。

80 代の女性
「日本の歴史を振り返ってみて、強制的に柳樹河開拓団という治安の悪いところでどんな思いで生きてこられたのか。家族を残した人等もう二度と戦争を起こしてはいけない！戦争はおろかな事です。もっと歴史を知り二度とこのようなことが起きないように学ぶこと。命についても子や孫たちに語り継いでいくべきではないでしょうか。」

60 代の女性
「全部見ると涙が出そうで、皆さん国の犠牲になられたんだなと感じました。この先このようなことがないよう願います。世界平和」

20 代の女性
「たくさんの残留孤児に関する資料を収集することは大変だったと思います。残留孤児たちの歴史は私たちから遠ざかりつつあ

ります。しかし、資料に残された写真や記録を通して過酷な戦争の中で彼らが受けた苦しみを垣間見ることが出来ます。帰国した残留孤児の中高齢者は、いろいろな困難を直面しました。生活習慣や言語の壁などたくさんの不便なところがあります。「いほり介護施設」の設立は本当に良かったと思います。「いほり介護施設」は残留孤児たちが支障なく交流できる場所を提供するとともに、中国・日本の祝日にちなんださまざまなイベントも開催し、彼らの日常生活を豊かにしています。戦争がおこらないことを願っています。一般の人がこのような苦しみを再び味わうことのないように」

4 月 18 日 文責 青木康嘉

次回の新聞発送作業は
5月29日(木)午前10時半か
ら民主会館で行います。
前回お手伝いくださった方
です。

犬飼
河井
真田